



がん検診は、がんをできるだけ早期に発見し、適切な治療を行なうことで死亡率を減らすことが目的です。お二人の体談にもあったように、早く治療を始めた分だけ治療する確率が高くなり、体への負担も経済的な負担も少なくて済みます。

あなただけでなく家族のためにも、検診に関する正しい認識を持ち、早期発見・早期治療につなげるため、定期的にかん検診を受診しましょう。

がん検診が あなたの命を救うかもしれません

「がんになる人が増えているけれど、私は大丈夫」と、頭のどこかで考えていませんか。がんは、昭和56年にはすでに日本人の死因第1位です。平成27年には死亡者数の約3割を占め、男性は肺がん、胃がん、大腸がんの順、女性は大腸がん、肺がん、胃がんの順になっています。(平成27年厚生労働省人口動態調査より)

今回は、市のがん検診でがんが見つかったお2人に話を聞きました。

平成29年度がん検診申込票を発送しました

30歳以上(S62.4.1以前生まれ)の人がいる世帯に郵送しています。世帯全員分を記入し、2月28日(火)までに提出してください。ただし、平成28年度以前に申込票「不要」で提出した個人や世帯には送付していません。必要な場合はお問い合わせください。



検診名	内容	対象年齢 (平成29年度末年齢)	自己負担金(予定)			
			69歳以下	70歳以上		
がん複合検診(集団)	胃がん検診	胃X線撮影(バリウム使用)	31歳~79歳	1,400円	500円	
	大腸がん検診	便潜血検査(検便)	31歳~	500円	200円	
	腹部超音波検診			1,100円	1,000円	
	肺がん検診	胸部X線検査	40歳~	600円	200円	
	骨粗しょう症検診	前腕部の骨密度測定		1,000円	300円	
	子宮頸がん検診	子宮頸部細胞診	女性	31歳~	1,300円	400円
	乳がん検診	マンモグラフィ・乳房超音波検査		40歳~	1,900円	600円
		乳房超音波検査		31歳~	1,000円	300円
	オプション	甲状腺超音波(乳がん検診受診者のみ)		1,080円		
	その他の検診	大腸ファイバー検診	内視鏡検査(S状結腸)	31歳~	2,000円	
便潜血検査(検便)			500円		200円	
子宮頸がん施設検診*		内診・子宮頸部細胞診	女性	20歳~	600円~1,700円	
乳がん施設検診	視触診 マンモグラフィまたは乳房超音波検査	女性	31歳~	500円~2,600円		

*20歳代の申し込みについては、広報6月号でお知らせする予定です。



歯周疾患検診の受診期限は3月31日(金)です

無料の歯周疾患検診の受診期限が迫っています。対象者には昨年5月に受診券を発送しています。この機会にぜひ受診しましょう。受診券を紛失した人はお問い合わせください。

- 対象 平成28年4月1日時点で35・40・50・60・65歳の人
- ところ 市内委託歯科医院(詳しくはお尋ねください)
- 内容 歯の健康チェック、歯肉検査、検査結果説明
- 受診に必要なもの 受診券(はがき)、健康保険証

●申し込み・問い合わせ先 健康づくり推進課 健康推進班 ☎242-1183

がん検診で 命拾いしました



なかしま よしひろ
中島 義弘 さん(57)
(永江団地)

市の補助で受けられる検診が増えたと聞いて、3年前、7年ぶりに大腸がん検診を受けました。9月に受診し、10月下旬には再検査の通知が届きました。11月、内視鏡カメラで検査すると、直腸に13個のポリープを発見。そのうち3つは大きさが1センチ以上で、がんの疑いがありました。

12月に手術でポリープの一部を摘出して検査すると、翌年1月上旬には直腸がんと診断されました。残りのポリープも同月内に手術で除去しましたが、術後の体が回復するまで人工肛門が必要になりました。8時間かけてまた手術しました。

病院の対応が早く、幸いにも私は回復が早かったため、現在は人工肛門もはずし、以前とほとんど変わらない生活をしています。しかし発見があと1年遅れていたら抗がん剤治療が必要になり、さらに2~3年遅れていたら命も危なかったと医師は言います。

ポリープは1センチになるまで4~5年かかるため、2年に一度検査を受けておけば「がん化」する前に発見できます。1センチ以内ならほとんどが3泊4日程度の入院で手術ができ、回復するそうです。特に、女性はお尻からカメラを入れる内視鏡検査を恥ずかしがる人もいますが、自分の命を守るため、積極的に受診してほしいですね。発見が早いほど痛みも少なく、医療費もかきみません。「早期発見さえできれば、がんは決して怖くない」。このことを、より多くの人に伝えたいです。

早期発見だからこそ より多くの選択肢がある

昨年9月、がん検診でマンモグラフィと乳房超音波検査を受けました。数日後、市の保健師から右胸の乳がんの疑いで再検査が必要との電話がありました。精密検査をする、その日の午後には乳がんと診断されました。がん検診から11日後のことでした。

これまで2年に1度はきちんとしていたため、「まさか私が？」と驚きました。ただ、乳腺エコーはしていませんでした。がんの大きさは1.5センチ程度。幸いにも転移はしていませんでしたが、乳房の温存手術後に放射線治療をするか、全部摘出するか選択を迫られました。

女性にとって胸や子宮の摘出はためらわれます。しかし、生命維持には支障がないこと、術後の痛みを抱えて数十回も通う放射線治療に抵抗があったことから、右胸を全部摘出する方法を選択しました。10月中旬に手術を受けたと、術後2週間ほどで仕事に復帰。職場の協力で時短勤務しながら体を慣らし、現在は通常通り勤務しています。

合志市のように乳がん検診でマンモグラフィと乳房超音波検査両方を実施している自治体は多くありません。1昨年、引越して来なければ発見が遅れ、抗がん剤治療も必要になっていたかもしれせん。年齢やその時の状況に応じて治療方法を選択できるのが早期発見があつてこそ。がんは怖いですが、大きくなるまで年数が必要なので、検査は早めに、1年~2年に1回、定期的に受けてほしいですね。



もり かずみ
森 和美 さん(48)
(笹原)

*ご希望により写真は掲載していません。